PEACE WAVE

特定非営利活動法人

沖縄平和協力センター
令和2年度 年次報告号

OKINAWA PEACE ASSISTANCE CENTER - OPAC
ANNUAL REPORT

2020-2021

2021 AUGUST

平和を希求する「沖縄の心」を
具体的な行動に。

PEACE WAVE

令和2年度 年次報告号
2020 - 2021

目次
CONTENTS

P.2
理事長挨拶

P.3
令和2年度 事業報告

P.7
特集 「数字でわかるOPAC」

P.9
OPAC INFORMATION

P.11
コラム

P.12
団体情報

OKINAWA PEACE ASSISTANCE CENTER.

理事長挨拶

MESSAGE FROM THE DIRECTOR

「沖縄の心を具体的な行動に。」
沖縄平和協力センターはこの理念のもと、平和や安全保障におけるシンクタンクとして2002年に設立されました。以来県内外や国外の様々な調査研究・人材育成等に携わり、関係機関の皆様とともに邁進し、平和構築のあり方を問い続けてきました。そして来年の11月、当センターは創立20周年の節目を迎えます。多くの方々のお力添えによりこれまで活動が継続できていることへの感謝の気持ちを抱き、新たな思いで今年度を迎えました。

世界情勢を見渡すと、あらゆる人々の「平和」が脅かされた激動の1年でした。長期化する新型コロナウイルスの影響により感染者の拡大や外出自粛等による経済悪化、健康被害、家庭内の不和などがもたらされました。また、アジア系・黒人・LGBTQ当事者などへのヘイトクライムもより深刻なかたちで顕在化し、差別や偏見に対する大きなうねりが見え隠れするようになりました。とはいえこのような社会課題の噴出により、非常に短い時間の中でより多くの個人・コミュニティ・国家が多様な「平和な社会」について向き合い始めていると言えるのではないでしょうか。

昨年度当センターで実施した事業は、その半分以上がオンラインでの取組となりました。その中の「平和への思い（ウムイ）発信・交流・継承事業」にて「平和とは何か」という問に対し、参加学生から「オンラインではなく対面の学習ができるようになること」という意見が挙がりました。厳しい状況が続く中、若い世代が武力を伴う戦争と平和の二項対立だけではなく安全保障の広義性・多面性について身をもって実感しているということが垣間見えた瞬間でした。

これからも我々は時代の潮流を見据えて多様な平和のあり方やその実現に向けて模索し続ける必要があるでしょう。令和3年度も、当センターは具体的な活動を通して平和の実現に貢献し、その成果を発信していきます。

仲泊 和枝

理事長

令和2年度 事業報告

PROGRESS THROUGH 2020 - 2021

当センターでは定款に基づき、人材の育成、国際平和協力活動、安全保障及び国際平和協力に関する調査研究、国際平和協力交流・ネットワークづくり、安全保障及び国際平和協力に関する受託事業、 その他目的を達成するために必要な事業の分野にわたる事業を実施しており、以下では各分野に沿って事業を紹介します。

(1) 特定非営利活動に係る事業

教育機関でのオンライン講義および質疑応答

	名桜大学で提供される講義への講師派遣（国際協力について）	琉球大学で提供される講義への講師派遣（SDGsについて）	大分東明高校の社会科授業にて質疑応答（沖縄戦について）
実施日	2020年12月17日	2021年2月18日	2021年3月12日 2021年3月16日
受益者	名桜大学生	琉球大学生	大分東明高校生
従事者数	1名	1名	2名

Peace Wave 改変・再発行事業（自主事業）

長年にわたり発行を一時的に中断していた当センターの機関紙であるPeace Waveについて、その内容を一部改変のうえ2020年7月に発行し、会員の方々や協力機関などに送付しました。Peace Waveの中では、当センターの活動の報告をさせていただくとともに、沖縄の安全保障に関する話題について有識者からの寄稿、県内で活動するNGOの紹介、平和に関する書籍の紹介などを行っております。今後も不定期ではありますが、発行を続けていきます。

Peace Wave

沖縄の心を具体的な行動に

Transforming Okinawa's Heart into Action

実施期間　2020年5月～2020年12月

実施場所　沖縄県内

受益者　沖縄県民

JICA 草の根技術協力事業

東ティモールのラジオ局による教育放送の実現に向けたイニシアチブ事業

沖縄から南に約4,000キロ進むと太平洋に浮かぶティモール島があり、その東半分に東ティモールという国があります。もともとポルトガルの植民地であった東ティモールは、1975年に隣国インドネシアの侵攻をうけましたが、24年間にもおよぶ独立闘争を経て2002年に独立しました。豊富な天然資源を背景に急速な発展を続ける一方で、コーヒー栽培も盛んで、今は日本国内でもコーヒーを味わうことができます。当センターと東ティモールの関係は2000年代前半までさかのぼり、今日まで様々な形で支援を継続してきています。

独立行政法人JICA HPより

当センターは、東ティモールで独立行政法人国際協力機構（JICA）の草の根技術協力事業を実施しています。東ティモール国内でジャーナリスト育成機関として活動しているFundasaun Media Development Center (FMDC)が本事業の現地パートナーです。本事業はFMDCに対しラジオを利用した教育放送番組を制作するための技術を移転することを目的に進めています。将来的には、学校教育を続けることができなくなってしまった子ども達や、学ぶ意欲をもった一般の方々に学びの機会を提供したり、東ティモール国内で制作される教育番組の総数が増えていくことを目指しています。令和2年度は、現地で新型コロナウイルス感染が拡大したり、大規模な洪水が発生するなど、厳しい事業環境が続いていますがゆっくりとそして着実に事業は進んでいます。

実施期間　[全体] 2019年9月～2022年2月
[今期] 2020年4月～2021年3月

実施場所　東ティモール (ディリ)

受益者　東ティモール国民

沖縄県委託事業

令和2年度「平和への思い（ウムイ）」発信・交流・継承事業
（株式会社うるまAVセンターとのコンソーシアム）

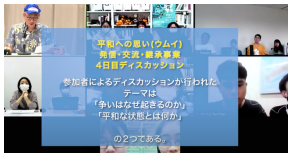
沖縄、広島、長崎、韓国、ベトナム、台湾の6地域の大学生が参加し、それぞれの地域で発生した沖縄戦や原爆投下などの戦争や事件の実相や継承の課題について報告し、意見交換を行う事業をオンラインで実施しました。本来であればカンボジアの大学生も参加する予定でしたが、現地で新型コロナウイルス感染が拡大したことで、参加を見送ることになってしまいました。事業内で実施された意見交換では、「平和とはなにか」「戦争はなぜおこるのか」といった議題をもとに、参加者から様々な意見が述べられ、充実した意見交換となりました。
また、同事業では沖縄県の平和行政に関する取り組みをまとめた動画を制作する等、平和を積極的に発信するための取り組みも行いました。
制作した動画は以下のQRコードから視聴可能です。

実施期間　2020年9月～2021年3月
実施場所　沖縄県内
受益者　沖縄県民、広島県民、長崎県民、韓国国民、ベトナム国民、台湾国民

オンライン学習関連動画

オンラインでつなぐアジアの学生との学び
「平和への思い（ウムイ）」2020　ダイジェスト版（3分）
https://www.youtube.com/watch?v=50DShRVGpzs&list=PLjCs709XbPupqjV4USO4YYKT777RKOWGb&index=13

オンラインでつなぐアジアの学生との学び
「平和への思い（ウムイ）」2020　フル版（15分）
https://www.youtube.com/watch?v=0qwW1itml24&list=PLjCs709XbPupqjV4USO4YYKT777RKOWGb&index=12



オンラインでつなぐアジアの学生との学び
「平和への思い（ウムイ）」2020　ディスカッション部分（23分）
https://www.youtube.com/watch?v=pY1o_jS9mac&list=PLjCs709XbPupqjV4USO4YYKT777RKOWGb&index=11

沖縄県の取組に関する動画

「平和への思い（ウムイ）」をつなぎ、伝える　～沖縄県の取組～
https://www.youtube.com/watch?v=ZlzQsIm_3Po

客員研究員の派遣

令和2年度
SDGs及び多様な人材育成に関する調査検討業務への客員研究員の派遣

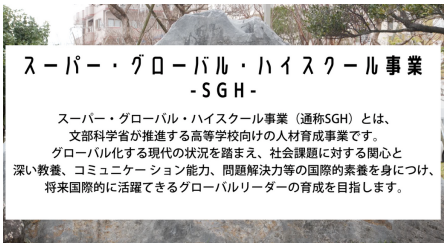
（一財）南西地域産業活性化センターが受託した「令和2年度SDGs及び多様な人材育成に関する調査検討業務」へ当センターから職員3名を客員研究員として派遣し、調査や会議開催業務などの補助を行いました。

実施期間　2020年6月～2021年3月
実施場所　沖縄県内
受益者　沖縄県民

那覇国際高校委託事業

令和2年度
スーパーグローバルハイスクール（SGH）支援事業

那覇国際高校は、文部科学省からスーパーグローバルハイスクールの指定を受けており次世代のグローバル・リーダーの育成に取り組んできました。令和2年度には、同校の生徒がこれまでの取り組みを国内外の大学生などに向けて発表するにあたり、当センターは海外の大学等との日程調整、報告書作成及び記録動画制作の業務調整等を行いました。



実施期間　2020年11月～2021年3月
実施場所　沖縄県内
受益者　那覇国際高校

(2) 収益事業

実施実績なし

数字でわかる！

OPAC

今日にいたるまで、OPACは様々な活動を行ってきました。
ここではこれまでの実績の一部をご紹介します。

fact 01.

安全保障に関する取組数

102 件

沖縄で平和を語るには安全保障の問題は無視できません。微力ではありますが、これまでに100を超える調査・研究やシンポジウムを開催してきました。

fact 02.

国際協力に関する取組数

92 件

東アジアの平和を実現するためには地域間の国際協力が必要不可欠です。OPACはこれまでに開発途上国からの数多くの研修員を受け入れ、また、カンボジア及び東ティモールにおいては現地で事業を実施してきています。

fact 03.

支援・育成に関わった国の数

16 カ国

平和を希求するための具体的な行動の一つとしてOPACは人材育成に力を注いできました。これまでに中東、アフリカ、アジアにいたるまで、多くの方々を受け入れ研修を行っています。

fact 04.

インターンの受入実績

72 人

これまでに多くの大学生や大学院生に来ていただきました。数か月にわたるインターンをされた方もいれば、数週間の短期インターンの方もおり、多様な形でインターンを受け入れておりますので、興味関心のある方はお気軽に問い合わせください。

fact 05.

発行した報告書数

20 冊以上

OPACはシンクタンク機能を持つ団体として設立されたこともあり、これまでに多くの書籍や報告書を作成しております。報告書は当センター事務所にて配布しており、その一部はOPACのHPでご覧いただけます。

fact 06.

オンラインを活用した取組数

7 件

感染予防や効率的な事業目標達成のために、オンラインでの会議を実施したり、大学生に向けて遠隔授業を提供するなどの取り組みを始めました。

＼ より詳しく！ ／

詳細はウェブサイトに掲載中！

沖縄平和協力センター
http://www.opac.or.jp

OPAC information

当センターでは各種事業の他、さまざまな取組を行っています。

OFFICE STAFF
Kazue Nakadomari
Yohei Higuchi
Isoko Ohama
Aino Kinjo

WEBSITE
http://www.opac.or.jp

CONTACT
higuchi@opac.or.jp （樋口）

出前講座

主に沖縄県内の高校・大学等の教育機関で出前講座を実施しています。令和2年度はSDGs、国際協力、紛争解決、平和教育等に関する授業を実施しました。対面・非対面・ハイブリッド方式なども状況に応じて対応しています。お気軽にお問い合わせください。

インターン・ボランティア受入

NPOの活動や国際協力、安全保障、人材育成等に関心のある学生を受け入れています！過去のインターン生の体験談はウェブサイトよりご覧いただけます。

歴代インターン紹介 [website]
http://www.opac.or.jp/organization/index.html

NPOに関する疑問・ご相談の受付

国際協力の活動内容や沖縄県内のNPO運営に関する相談を受け付けています。NPOの立ち上げに興味があるけどどこから始めたらいいかわからない、国際協力活動とはどんなことをするのか？などの疑問がある方、ご連絡お待ちしています！

寄付の受付

OPACでは寄付の受付を随時行っています。
沖縄の平和構築や安全保障の研究に貢献したいというみなさまのご支援・ご協力ををお待ちしています。

寄付 [website]
http://www.opac.or.jp/recruit/index.html

会員の募集

賛助会員・正会員を随時募集しています！
会費（賛助会員 個人の場合）は、1口3,000円から承っております。これらの会費は県内外での調査研究や人材育成等を達成するために役立てられます。
みなさまのご理解・ご協力をどうぞよろしくお願いします！

会員募集 [website]
http://www.opac.or.jp/recruit/index.html

スタッフ紹介

仲泊 和枝
理事長

那覇市出身

Q. 2020年はどんな1年でしたか？

やはり新型コロナウイルスに振り回されました。期待していた大きな仕事が急きょなくなり、なんと、4月～6月の3か月間は自宅待機という名のもと、「失業状態」でした。"OPACはどうなる？？"と不安でしたが、おかげさまで7月からは仕事が再開し、どうにか無事に年度を終わることができました。コロナの影響でお仕事が上手くいかない方々多くいる中、仕事があることの有り難さを強く感じた2020年でした。

樋口 洋平
事務局長

熊本県出身

Q. 2020年はどんな1年でしたか？

令和2年度は「挑戦」の一年でした。コロナ禍で多くの事業がオンライン化されたことで、会議運営やディスカッションといったOPACが得意としていたことをどう適応させていくのか試行錯誤の連続で大変な時期もありましたが、振り返ってみると新しいノウハウを得られた成長の一年だったのだと感じています。

大濵 勤子
主任研究員

宮古島出身

Q. 2020年はどんな1年でしたか？

新型コロナウイルス感染症の蔓延でこれまでの日常が大きく変わる中、あらためて平和とは何なのかを考えさせられた一年でした。同時に、それぞれが皆、それぞれの場所で工夫して生活を営み続ける社会の逞しさも実感しました。OPACもこの一年の経験でさらに強く逞しくなったと思います。

金城 愛乃
研究員

宜野湾市出身

Q. 2020年はどんな1年でしたか？

個人的にはラッキーイヤーでした。1ヶ月程ヨーロッパに滞在する予定でしたがフライトが欠航し、結果的にパンデミックを回避できました。その後はご縁があってOPACに迎え入れていただき、コロナ禍でも楽しく過ごすことができました。業務で新しいwebツールを開拓したりデザイン業務を任せていただいたりと様々な挑戦もできたので、思いの外いい1年でした。

OPAC NEWS

事務所駐車場に猫　可愛さ振りまく

OPACのビルの駐車場には猫がいます。常駐する猫は現在3匹ほど確認されており、職員を日々癒しています。キジトラ風の猫（写真右、通称：あかちゃん）は、これまでに何度か事務所の見学に訪れており、ひととおり匂いをかいだのち、無言で立ち去っていきます。

COLUMN
コラム

コロナ禍に向けて

研究員
金城 愛乃

OPAC研究員の金城です。
今回樋口事務局長から好きなことを書いて良いとの指示をいただきましたので、まだまだ続きそうなコロナ禍・外出自粛に向け、インドアな私が実践している屋内アクティビティ3選をご紹介したいと思います。

① 五感を騙して旅行気分を味わう
矛盾を抱えるようですが私は旅行が好きなタイプのインドアです。この2年間、気分だけでも非日常にしたく様々な試行錯誤を重ねた結果、五感のうち三つ以上に共通点がある場合、ある程度の旅行気分が再現されることがわかりました。例えば、イタリア風の音楽を流し（聴覚）、ベネチアの風景をYoutubeで見つつ（視覚）、パスタとワインを食す（味覚＋嗅覚）という具合です。目の前から日本語のインプットを極力排除することでより高い満足感が得られます（TVの音声、本、チラシなど）。

② 力強いBGMで少しだけ運動する
外出自粛といえども、あまりに長い期間身体を動かさずにいると当然悪影響が出ます。通常、日頃から運動する習慣がない人ほどその必要性が高まるので、極力ハードルを低くする方法として先程の①と少し似ていますが音楽の力を借りるのが効果的です。短時間かつパワフルな曲をBGMにすると、それだけで自分が日頃の鍛錬を欠かさないタイプの人間のような気がしてきます。私のおすすめはBon JoviのIt's My Life（中山きんに君のヤー！！！の曲）です。

③ やるべきことをする
コロナ禍で発見したことの一つに「やるべきことをちゃんとやると気分が良くなる現象」があります。これまで見て見ぬふりをしてきたことや、先延ばししていたことなどに着手し完成させるとそれだけで達成感が得られます。やるべきタスクと認識しているものであれば実際の手間ひまの程度に関係なく、壊れた家具の処分でも、三線の弦の張り替えでも、同様の達成感が得られます（金城調べ）。やる気が起きない場合には"Done is Better than Perfect!!" (やらないよりまし）と叫ぶと、「ちょっとでもいいからやっておくか」という気分が誘発されます。ぜひお試しください。

編集後記

事務局長
樋口 洋平

今回、報告書のレイアウトやデザインを一新いたしました。手前味噌ですが、これまでの報告書では取り組むことができていなかった読み手を引き付ける工夫を少しは盛り込むことができたのではないかと思っています。
（作成してくれた金城さんありがとう）。
報告書を書きながら、一年を振り返ってみると、コロナ禍の中にありながらも期中にいただいた事業が本当に多く、OPACを信頼いただいた関係機関の方々に深くお礼を申し上げます。皆様の協力もありなんとか令和2年度を乗り切ることができました。

▲「平和への思い」事業でのひとコマ

2022年11月にOPACは設立20周年を迎えます。それに先立ち、本報告書の7〜8ページでは、これまでに実施してきた事業数や関わった国の数、インターンに来ていただいた方々の実績等を掲載しています。小さな団体ではございますが、意外に多くの実績残していると感じてもらえるのではないでしょうか。

令和2年度は、国際関係、コロナ禍、貧困、人種差別、ジェンダー問題などが社会でとりあげられ、平和を多様な視点から考える機会が多い一年でした。令和3年度もOPACは多様な視点から平和を見つめ、平和のための具体的な行動に取り組んでいきます。

役員紹介

理事長	仲泊 和枝	元事務局長
副理事長	上杉 勇司	早稲田大学 国際教養学部　教授
理事	伊藤 剛	株式会社 アソボット　代表取締役
理事	小林 綾子	上智大学 総合グローバル学部　特任助教
理事	清水 磨男	那覇市議会議員
理事	仲本 千津	株式会社 RICCI EVERYDAY 最高執行責任者
理事	又吉 健太郎	浦添市議会議員
監事	玉寄 通孝	日本検査キューエイ株式会社　沖縄事務所　理事審査員

会員制度

	賛助会員	正会員 （一般会員）	正会員 （名誉会員）
▶ 入会金	なし	50,000円	300,000円
▶ 年会費	[個人] 一口　3,000円～ [団体] 一口 10,000円～	一口 3,000円～	一口 3,000円～

会員特典　講演会・研修会等イベントのご案内およびご招待　など

▼▼ 入会を希望される方は、下記の団体情報を参考に当センターまでご連絡ください ▼▼
みなさまのご協力・ご理解のほどよろしくお願いいたします

特定非営利活動法人
沖縄平和協力センター
Okinawa Peace Assistance Center - OPAC

住所　〒900-0033 沖縄県那覇市久米1-5-18 稲福ビル201-B
TEL　098-866-4635
FAX　098-866-4638
E-MAIL　higuchi@opac.or.jp （樋口）
HP　www.opac.or.jp

特定非営利活動法人
沖縄平和協力センター

Okinawa Peace Assistance Center
OPAC